

授業科目 生理学実習Ⅰ

科目コード番号

【担当教員名】 宮岡 洋三	対象学年	1	対象学科	栄養・社会
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	1	時間数	30

【概要及び学習目標】

<概略> 本科目では、人体の機能について実験的に学びます。生理学講義では、主に「頭」を使って知識を獲得してゆきますが、この生理学実習では、「手」をはじめ「身体」全体で学習するのが特徴です。従って、とにかく実際に参加して「素直な」気持ちでやってみることが重要で、「いい実験結果を出そう」とか「教科書にある内容と違うから失敗だった」という意識は持たないで下さい。

<学習目標> この「生理学実習Ⅰ」では、自分自身あるいは同級生を対対象として、感覚機能や運動機能あるいは循環機能や呼吸機能などに関する基礎を習得します。上述の通り、「素直な」気持ちで臨んで、「どんな結果が得られるのかな?」という好奇心をもち楽しんで欲しいものです。この科目を通して、自分自身あるいは同級生の生理機能に対する理解を深められれば、学習の目標は十分に達成されることとなります。

回数	学習の主題	学習内容	学習方法
1	実習ガイダンス	生理学実習の目的、レポート作成法、参加態度ならびに諸注意を学ぶ	実習
2	〃	生理学実習で用いる計測機器の作動原理、使用法などを学ぶ	同上
3	体性感覚に関する実習	皮膚・粘膜の圧・触点の検索、二点弁別閾値の測定ならびに重量感覚について実験的に学ぶ	同上
4	〃		同上
5	特殊感覚に関する実習	味覚を例に取って、検知閾や認知閾などの概念について実験を通して理解する	同上
6	〃		同上
7	運動機能に関する実習	四肢筋の筋電図活動を記録し、筋収縮機構について実験的に学ぶ	同上
8	〃		同上
9	心肺機能に関する実習Ⅰ	心拍数、血圧の測定と運動負荷による変化を観察・記録する	同上
10	〃		同上
11	心肺機能に関する実習Ⅱ	心電図の記録をおこなって心筋の興奮伝導系について考える	同上
12	〃	肺活量、1秒率などの諸指標を測定して、呼吸機能を実験的に理解する	同上
13	神経機能に関する実習	ヒトの各種反射を誘発して、「反射」の概念について理解する	同上
14	〃	聴覚刺激と視覚刺激に対する反応時間を測定し、反応系を考える	同上

【評価方法】

実習への参加とレポート提出 (2/3) ならびに期末試験 (1/3)

【履修上の留意点】

健康栄養学科の学生については、「解剖生理学実習Ⅰ」ならびに「解剖生理学実習Ⅱ」と内容の一部が重複することを予め了解しておくこと。社会福祉学科の学生については、実習の内容が「生理学Ⅱ」のレベルにあるため、「生理学Ⅰ」のみの知識では習得に困難が生じることを予め了解しておくこと。従って、実習内容の理解（具体的には、レポートの作成）には、相当時間の自習を要するものと考えて欲しい。

【使用図書】

教科書・参考書等	書名等	著者名	発行所	発行年・価格・その他
教科書				
参考書				
その他 (プリント等)	予め関係資料を配布			